

## 20 A移動とAバー移動の違い

句移動は着地点が項位置か非項位置かによって2種類に分けられる。項位置に着地する句移動を**A移動 (A-movement)**といい、非項位置に着地する句移動を**Aバー移動 (A-bar movement)**という。なお、項位置については統率・束縛理論でIP指定部と動詞の補部と規定されていたが、その後の研究により何度も定義の改定が試みられている。本項目では項位置の定義には深く立ち入らず、主語位置と目的語位置がその位置に該当するとして議論する。

A移動は、受動化(1a)、主語位置への繰り上げ(1b)、目的語位置への繰り上げ(1c)などが該当する。

- (1) a. John<sub>i</sub> was praised  $t_i$ .  
b. John<sub>i</sub> seems  $t_i$  to be a genius.  
c. John believes Mary<sub>i</sub>  $t_i$  to be a genius.

一方、Aバー移動は、wh 移動 (2a) や話題化 (2b) などの左方移動に加えて、重名詞句転移などの右方移動 (2c) も該当する。

- (2) a. What<sub>i</sub> do you like  $t_i$ ?  
b. Mary<sub>i</sub>, John praised  $t_i$ .  
c. John praised  $t_i$  yesterday [the book that Mary wrote].

A移動とAバー移動は、着地点以外にも様々な点で違いが見られる。以下ではその違いをいくつか説明する。

第1に、英語のA移動は定形節を越えられないが((3a) 参照)、英語のAバー移動は定形節を越えることができる((3b) 参照)。(3a)のような定形節を越えるA移動は超縁り上げ(hyper-raising)と呼ばれる。

- (3) a. \*John<sub>i</sub> seems (that)  $t_i$  likes dogs.  
b. Who<sub>i</sub> do you think  $t_i$  likes dogs? (Richards 2014: 168)

第2に、A移動は移動先の位置からの照応形束縛を許すのに対し((4a)参照), Aバー移動は移動先の位置からの照応形束縛を許さない((4b)参照)。

- (4) a. [John<sub>i</sub>]<sub>j</sub> seems to himself<sub>i</sub>  $t_j$  to be a genius.  
 b. \*[Which children<sub>i</sub>]<sub>j</sub> does it seem to each other<sub>i</sub>'s parents that the teacher  
 should praise  $t_i$ ? (ibid.)

第3に、A移動とAバー移動は交差現象（crossover）に関して異なるふるまいを示す。交差現象とは、wh句のような演算子が、それが束縛する変項代名詞を越えて移動できないという現象である。なお、変項代名詞が移動の元位置をc統御

する場合の移動を強交差と呼び、c統御しない場合の移動を弱交差と呼ぶ。交差現象はAバー移動で観察される。(5a)は強交差の例であり、(5b)は弱交差の例である。

- (5) a. \*[Whose<sub>i</sub> mother]<sub>j</sub> does he<sub>i</sub> like *t<sub>j</sub>*?

- b. ??[Who<sub>i</sub>]<sub>j</sub> does his<sub>i</sub> mother like *t<sub>j</sub>*?

一方、交差現象はA移動では観察されない。(6a)は強交差の構造を持ち、(6b)は弱交差の構造を持つが、いずれも文法的である。

- (6) a. [Whose<sub>i</sub> mother]<sub>j</sub> seems to him<sub>i</sub> *t<sub>j</sub>* to be kind?

- b. [Who<sub>i</sub>]<sub>j</sub> seems to his<sub>i</sub> mother *t<sub>j</sub>* to be kind?

第4に、Aバー移動は移動要素を義務的に再構築するのに対し、A移動は必ずしも再構築しない。(7a)では、wh句が移動の元位置に再構築されることで、wh句内の指示表現が代名詞に束縛されて束縛条件C違反が生じている。一方、(7b)では再構築による束縛条件C違反は生じない。

- (7) a. \*[Which picture of John]<sub>i</sub>]<sub>j</sub> does he<sub>i</sub> like *t<sub>j</sub>*?

- b. [A picture of John]<sub>i</sub>]<sub>j</sub> seems to him<sub>i</sub> *t<sub>j</sub>* to be great.

第5に、A移動の適用対象は格付与を受けるDPに限られるが((8a)参照)、Aバー移動の適用対象はDPに限られない((8b)参照)。

- (8) a. \*[To John]<sub>i</sub> was said *t<sub>i</sub>* that it is raining.

- b. [To whom]<sub>i</sub> did you say *t<sub>i</sub>* that it is raining. (Richards 2014: 168)

第6に、A移動は寄生空所(parasitic gap, pg)を認可しないが((9a)参照)、Aバー移動は寄生空所を認可する((9b)参照)。

- (9) a. \*John<sub>i</sub> was hired *t<sub>i</sub>* without talking to pg.

- b. Who<sub>i</sub> did you hire *t<sub>i</sub>* without talking to pg? (ibid.)

第7に、A移動の後にAバー移動を適用することはできるが((10a)参照)、Aバー移動の後にA移動を適用することはできない((10b)参照)。

- (10) a. Who<sub>i</sub> do you think *t'<sub>i</sub>* will be told *t<sub>i</sub>*?

- b. \*Who<sub>i</sub> is known *t'<sub>i</sub>* it will be told *t<sub>i</sub>*. (ibid.)

(10a)では受動化の後にwh移動が適用されており文法的である。一方、(10b)では間接疑問文を形成するwh移動が適用された後に主節主語位置への移動が適用されており非文法的である。なお、(10b)のような非項位置から項位置へのA移動は**非適正移動(improper movement)**と呼ばれる。

(齋藤 章吾)